



## 6月1日 川崎学園創立記念日

### 開学式

昭和45年6月1日午前10時、医科大学進学課程校舎（現在の医療短期大学校舎）大講堂において、開学式が挙行された。

その春に入学したばかりの医科大学と附属高校の第1期生と保護者を中心に、文部大臣代、岡山県知事代、岡山大学長、県医師会長、教育・医療界をはじめとする各界の来賓150名を迎える。学園からは川崎祐宣理事長、赤木五郎医科大学学長、川端清附属高校校長ほか教職員が出席、新しい門出を祝った。

### 開学の辞

川崎祐宣理事長は開学の辞の中で次のように述べられた。（※以下抜粋。全文を学園イントラに掲載）

「本大学創立の主旨は、教育の適地たるこの丘を拓き、仁術に生きる眞の良医を育て、よって医師不足の緩和と医学の進歩に寄与したいということでございます」「この悲願は、爾來早くも6か年の歳月を経過いたしました」

「大学及び附属高等学校は本日開学いたしましたものの、その学校づくりは只今から始まります。幸いに、学園は多数の志願者の中から、眞の医師を志す若き学生生徒と、眞の教育を念ずる練達の教師諸君を迎えることができました。開学の精神に則り、新時代の医学教育の道を求めて、理事者師弟同行の中に探求し実践して参る所存でございます」

また、関係者・関係機関全てに深謝され、「この学園の母体たる川崎病院に関わりある多数の皆様・川崎病院役職員一同の協力に負うところも、極めて大なるものがありました」と述べられた。

### 学園創立記念日の制定

翌年からは6月1日を、開学記念日（医科大学）、開校記念日（附属高校）とし休業とした。3年後に開学した医療短期大学は、この日を創立記念日としたが、昭和51年までは平常どおり授業



医科大学は現在の医療短期大学の校舎を使いスタートした。左上に「川崎医科大学」の文字



1970(昭和45)年6月1日開学式で式辞を述べる川崎祐宣初代理事長

を行っていた。

昭和52年4月、6月1日が学園創立記念日に制定され、全学休日となった。

「開学記念日は、全学の学生生徒・教職員が相ともに、学園開設の意義と精神について思いを新たにする日である。開学の初心に立ち返る日である。学生生徒は日々の研修生活を、教職員は教育と運営について顧み、それぞれ明日を期する日である」（『川崎学園創立10年誌』より）

### 開学当時の様子

川崎明徳学園長にお話をうかがいました。  
「医科大学創設の構想を父（祐宣）から打ち明けられたのは私が岡山大学で臨床研修中の時でした。いよいよ準備が本格化、私は岡大医学部講師を辞めて「設立準備期成会」の副理事長として理事長を補佐しました。設立の準備は過酷を極めました。やつと前年11月に文部省の現地視察も無事終わっていましたが、その後一向に音沙汰が無い。戦後はじめての私立医科大学の設置ということもあってでしょう。とにかく準備は進めていましたが気が気がありませんでした。3月17日に文部省から認可の通知があり、同日に岡山県から附属高校の設置も認可されました。正式認可の電話が入るとともに準備していた募集要項4万部を全国に発送しました。それからは、医科大学と附属高校の1次試験、2次試験、合格発表、入寮式、入学式（4.20高校、5.9医科大学）、その間に校舎の落成式（5.2）とめまぐるしいスケジュールで、6月1日開学式を迎えました」



当時の川崎明徳先生

戦後の新学制下で初、明確な理念、革新的な教育を掲げた医科大学、附属高校の開学は、全国から大きな期待が寄せられ、第1回入学試験は、医科大学は応募者1,698名、合格者121名、附属高校は応募者548名、合格者55名であった。